

和歌山、永遠の絆

宋 謙

和歌山大学大学院観光学研究科 中国

和歌山県は私の出身地である山東省との友好関係を持っているほか、母校の山東大学も和歌山大学の海外提携校でもありますので、中国学部時代に和歌山という都市のことがしばしば耳に入ってきました。私は大学の先輩との交流で和歌山に関する事をよく話しましたが、実際どういう場所かは自分の目で確かめたくなっているようです。

2011年、和歌山に強い好奇心を持つ私は日本へ留学することを決めました。同年10月に、私は日本の土地に踏み込みました。空港バスの中から広大な海を見かけられ、白い天空と緑溢れた並木・・・不思議なことですが、初めてきたのに何らかの形でこの土地に親しみを感じられるようになってきました。まるでかつてどこかで住んでいたことのある土地のようでした。

忙しい留学生活が始まりました。最初はゼロから日本語を学び、五十音を覚えて単語を書けるように日々頑張ってきました。最初の一年間、毎日大変な生活を送りました。本当に辛い時期でしたが、日本の文化と触れ合う事もでき、また先生や友達が私を支えてくれて、私にとって最高の一年間だったと思います。

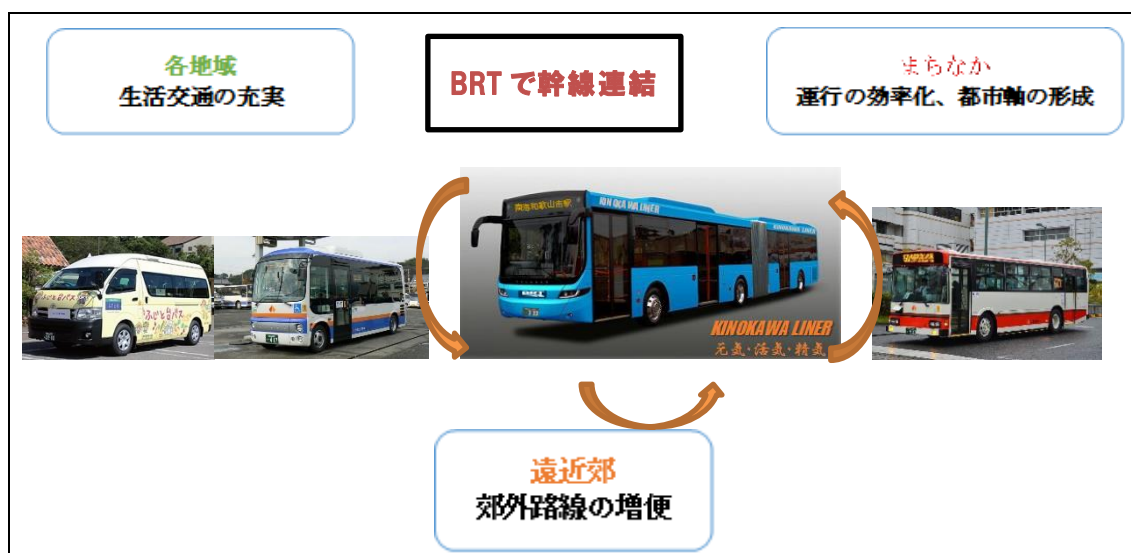
その後、和歌山大学大学院修士課程に入って、ロータリー米山記念奨学金を頂いて充実した院生生活を送りました。この一年を振り返ると、いろいろな人は、私にとって、世界観を広げ、日中ネットワークを強くし、奉仕と平和への責任感を持たせてくれた、大事な存在でした。修士課程2年目の9月に、神戸大学博士課程を合格しましたが、心から和歌山と別れたくない感情が湧き、和歌山は私にとって親のようで、温かい家のように強く感じられ、「残れ」という声が聞えてくるようでした。結局、神戸に行けず、和歌山大学の博士課程に進学しました。

博士課程での研究を通じて、和歌山に関する様々な問題を発見しています。その中で公共交通の不便さが一番肝心な問題だと思っております。例えば、始発でないバス停においては当駅からの行き先不明の問題と途中の乗換不便の問題などにより、バス離れがますます深刻な状況になっています。一方、バス事業者が赤字路線の撤退をすると、運転できない子供・高齢者にとって不幸な話になるはずですが。そのような都市問題を改善したいことから、私は和歌山地域の発展に心動かされており、急劇な少子高齢化社会の進行、そして車社会の中で、安心・安全な地域づくりに積極的に力を注いでいるところです。先日、和歌山地域経済研究機構の研究メンバーになって新型公共交通システム BRT (バス高速輸送システム) の構想を提案しています。その提案を県・市への報告も準備しているところです。

私は第二の故郷和歌山において、持続可能な社会を実現するために、環境・社会・経済それぞれの側面から都市計画に係る政策提言を努力してまいります。白い天空、緑溢れたまち、活気・精気・元気といった魅力と個性ある和歌山づくりに貢献してまいりますので、私と和歌山の絆を永遠に結び付け、引き続き故郷の和歌山地域の発展のため、日々努力していきます。



和歌山 BRT 愛称 [KINOKAWA LINER]



和歌山 BRT 導入の基本コンセプト
(筆者作成)